

市民オンブズマンわかやま

ニュース NO62

発行責任者 畑中 正好 発行日 2007年7月12日
連絡先 和歌山市十二番丁10番地 和歌山合同法律事務所内
TEL 073-433-2241 FAX 073-433-2767
http://www.naxnet.or.jp/~wa_obz/ Eメール wa_obz@naxnet.or.jp

県議42名の政務調査費住民監査請求

総額1億8237万円の返還請求

事務所費、事務費、人件費の3年分

当会は、5月18日、県議会の政務調査費に関し、03～05年度の間に事務所、事務費、人件費の支出のあった議員42名の支出計約1億8237万円の使途が違法・不当であるとして、知事に返還させるよう勧告を求めた住民監査請求を行いました。

すでに、6月18日には意見陳述も行われ、この7月18日頃には監査結果がでる予定です。

これは、ニュース60 開示義務規定がないと号でお伝えしています。しても議員らには、これが、政務調査費で支出 される事務所費、事務 費、人件費について、 領収書の添付が一切な いことから、その支出 の妥当性に疑いを抱き、 各県議らに対し、公開 質問と領収書や会計帳 簿の任意開示を求めた ところ、大半の議員が 回答と任意開示を拒否 したことからさらなる 追及として、住民監査 請求に及んだものです。

領収書や会計帳簿の 年度の間に事務所費、 監査請求は、03～05 年には、その実態が電話

番程度とみられること から調査研究の補助者 に該当せず、これらへ の政務調査費の支出は 違法・不当としていま す。

その上、自宅に、政治団体等の事務所を併設している場合、政治団体の事務所にも経費の按分計上があるべきにもかかわらず、経費の計上がない事実を示し、その分の経費に、政務調査費が使用されていることを意味するとして返還を求めてい



和市・救助工作車購入契約撤回問題

状況証拠上 明白な談合

大橋市長は真相を解明せよ

和歌山市議会で官制談合の疑いの追及を受け、同市が7月4日に議案を撤回した救助工作車の購入問題は、すでに指名競争入札を実施して落札業者との間で仮購入契約を締結してしましたが、仮契約にいたる入札等の経緯が不自然であり、状況証拠上明白な談合であることが当会の調査でも分かりました。

仮契約は、事前に指名競争入札によって落札者を決め、落札した（株）モリタ大阪支店との間で行っていました。予算化する段階で市は、購入価格を見積もっていますが、その見

積もり業者が、落札業者と同一だったので見積もり業者を指名して入札に参加させ、たこと自体、同業者に落とさせるようなものは、購入価格を見積も業者を排除せず市が指

名したのでしょうか。その真相が問われます。

入札は、7社（1社辞退）が参加して、2回行われています。1回目、全社予定価格オーバーで不成立とな

ったからです。しかし、1、2回とも最低額は、いずれも落札した業者であり、一位不動です。しかも、落札額が予定価格とピッタリ一致しており落札率100%です。正常に競争されていたとすれば、一位不動などあり得ず、落

札率100%も考えられないことです。

その上、事前に見積もりを元に予算額が、1億5508万円（消費税抜き）と公表されていた。公表されている予算額から、予定価格がそれ以下であることは誰もが知っていることでした。従って、入札参加業者が、本気で落札をめざし入札したとすれば、予算額以下で入札することが当然といえたのです。しかし、現実には、1回目に予算額を下回っていた業者が、落札した業者1社のみという状況です。このように状況からすれば、疑いの域を超えて談合が行われたことはもはや明白です。

契約解除のみでは市民の不信は収まりません。大橋市長は、徹底的に真相を解明すべきです。

談合の証拠といえます。

	消費税抜き 単位千円	
	1回目	2回目
A	179,000	辞退
B	172,000	辞退
落札業者	154,800	154,500
D	157,200	辞退
E	168,000	辞退
F	156,000	154,700
G	155,400	154,700
予算額	155,080	
予定価格	154,500	

県議会・議員アルバム問題

任期終了記念に豪華写真帳の贈呈

必要性が全くなく公金支出は不当

県議会議員の4年間の任期最終年度毎に、公費で作成され、議員に無料で配布されていた「議員アルバム」に対し、「個人の私物になるものに公金の使途は許されないなどの県民の批判をうけて県議会は、この5月に、次回(2010年度)から原則的に希望する議員の買い取りにするとしたようですが、議員の任期終了に記念を意味する豪華な写真帳を公金で作成して贈呈する必要性など全くなく、今回も自費にすべきです。



『議員アルバム』問題は、産経新聞の報道等により最近明らかになったことから当会も着目。産経新聞によると前回(2002年度)作成された和歌山県議会の『議員アルバム』が、単価的に全国で一

番高額であったという。豪華な写真帳をこれまでも贈呈していたのかと思うと怒り心頭です。全国で一番高額だった豪華な前回の『議員アルバム』は、菊判六切和綴り、別珍、金箔、紙箱入り70冊を、単価4万2000円の計294万円で作成し、中山副知事が公費の支出を知事に代わり決裁していました。

印刷、表紙布地、紙ケース、のりさし、トレベ雲龍紙なし70冊を、単価3万4965円の計244万7550円で作成、仁坂知事が支出を決裁していました。『議員アルバム』は、特殊物品扱いで、議会活動写真の撮影も発注している(株)西本写真館に、いずれも随意契約で発注していました。配布先は、議員関係、執行部(3役と広報室)、事務局(局長、次長、

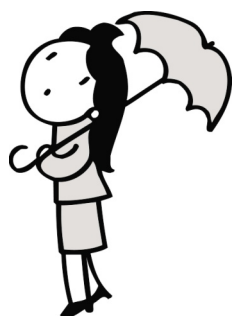
総務・議事・調査の各課長、速記、図書)、予備となっております。今回は前回より若干費用が減額なっていますが、いずれも一見して豪華なもので、記念になる写真帳というものです。また、70冊のうち53冊が議員用ということからすれば、作成の主たる目的が議員に贈呈するためには作成していることは明らかです。学生の「卒業記念アルバム」が自費であることと比較しても、このような、豪華な写真帳を公費で作成して議員に贈呈する必要性はまったくないといえます。

次回から買い取りにしたことに対し、「今回から買い取りにすべきだ」という声が寄せられています。もつともです。

これまでも、任期終了記念として、豪華写真帳を贈呈してきたのでしようが悪しき習慣は止めるべきでした。

仁坂知事も今回、真摯に県民の批判を受け止めていたならば、贈呈を中止すべきでした。知事の対応は批難に値します。

知事の対応批難に値



仁坂知事自慢の談合防止策



争入札にしています

が、その一般競争入札が、単一般競争入札ではなく条件付き一般競争入札として

ている点も問題です。

業者を限定することになり、結果として競争性が阻害されるからですね。

条件は県が決められるのですから、恣意的な運用を差し挟む余地を残しています。これが問題です。

談合協力業者

にも処分を

話、変えますが、指名停止要綱改正の

の評価はどうですか。

従来からの倍にするなど強化している点も見られますが、まだまだ不十分です。

不十分という点は。

先の汚職・官制談合事件で、県内の業者が起訴猶予になったことから、逮捕、書類送検された段階で指名停止になつて

いたにもかかわらず、指名停止が解除されたことを覚えてい

ますか。

覚えていません。

大概の県民もおかし

いと怒っていました。

今回の改正でも、

その点の扱いは何ら

変わっていません。

じゃ、厳しさが足りない訳だ。

起訴猶予とは、犯罪の証明が充分だけれども諸般の事情で起訴を猶予するとい

ふ処分です。犯罪の証明が不十分な不

起訴とは違うのです。この点を強化しなかつた今回の改正は厳しさが足りないとい

えます。本命業者に落ちることができるよう談合に協力した業者の指名停止処分はありますか。

いいえ、そのよ

うな規定はありません。談合に協力した業者への処分は、不正を防止する上で、是非必要な規定だと思

います。

本気で談合の防止を考えれば、もつと厳しさが要です。

その意味でも、談合が発覚した場合の違約金、現在、落札金額の2割ですが、これを4割か5割と

厳しくすべきです。

不正行為をしな

ければ支払う必要がない違約金ですから、今すぐにも厳しくできるのに何故しないのでしょうか。理解できませんね。

まったくです。

内部告発

安心してできる制度に

創設した検察の

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

OBをトップに据えた監察査察制度ついで仁坂知事は

なるほど。

しかし、今回の監察査察制度は、従来と同じように県庁内部に設置されてい

ます。また、職員は、

いずれも県庁の職員です。このような状態では、同じ県庁で働く者が内部告発を

と考えても情報漏れが心配でその気になれないと思います。だから内部告発のシステムとして機能するとは到底思えませ

ん。

従来からの公益通報制度（行政ホイッスル）では、内部告発が04年度以降ゼロで

したね。

毎日新聞に、「鳴らぬホイッスル」と

揶揄されていました

が、今回の制度でも、

あまり変わりがない

と思いますよ。

厳しさが足りない指名停止要綱の改正 起訴猶予業者らにも処分が必要

内部告発期待できない監察査察制度

仁坂知事は、監察査察制度を実施し、入札制度改革、指名停止要

綱の改正とあいついで談合防止策を公表しました。談合防止に知事は、「これ以上の制度は考えられない」と胸を張っているようですが、私達からみて評価できるものかについて、世話人の阪谷昇良氏と畑中正好事務局長とで話し合いました。ご紹介します。

阪谷 知事は談合防止に自信をみせていますが、どう思いますか。

誰が入札するかが事前に予測もつかないような制度にするのがポイントです。9ブロックに県内を分けた範囲毎に入札を許すことは、狭い地域の業者に限られます。

地域要件の緩和 一応評価

畑中 これまで県内9

ブロックに分けていた入札参加の「地域要件」を1億円以上は1ブロックにするなどの緩和策は一応評価に値します。

阪谷 評価できる理由は。
畑中 談合防止には、

狭い地域に限っている、事前に入札参加業者が予測できて、業者間で話し合うことが可能になるということですか。
畑中 そうです。そのためにも、できるだけ広い範囲からたくさんの方が参加で

きる形が望ましいのです。数でいうと50社以上、できれば100社ぐらいの参加可能な制度がよいといえます。
阪谷 地域要件を緩和することで入札参加業者が増えると考えられるから評価に値するいう訳ですね。
畑中 しかし、知事がいう地域要件の緩和で、どれだけ入札参加業者が増加するのか、また、予測もつかないような形が実際に実現するかは、いまのところわかり

ません。だから一応の評価です。
5億以上の
防止策不十分

阪谷 木村前知事の汚職・官制談合事件は、5億以上の入札でしたが、5億円以上の談合防止策が不十分と思いませんか。

畑中 その点の改善といえ、公募をやめて条件付き一般競争入札にしたことと、入札参加条件として、県内業者を入れた特定共同企業体(JV)を組むこととしていたのを、県外・県内業者にしていることと、大規模工事でも、県内に単体で施工可

能な業者が存在する場合には、いわゆる混合入札方式にして県内業者に単体での入札を可能にしていることでしょうか。

阪谷 大規模や特殊な工事の施工能力のある業者は全国でも限られています。外国企業でも入れない限り、予測が不可能な形に入札参加業者を増やすことは不可能です。従って、その程度の改革では談合防止にはあまり意味がないと思います。
畑中 ええ、私もそう思います。先の事件からすれば、トンネル工事とかシールド工事などの特殊、大規模工事の談合防止策が必要だった訳ですが、この点、みるべき改善点がないに等しいと思います。
阪谷 指名競争入札を原則廃止して一般競

第14回全国市民オンブズマン 山形大会のご案内

第14回全国市民オンブズマン大会が山形市で次のとおり開催されますのでご案内します。

参加を希望される方は事務局までご連絡下さい。

連絡先 電話073 - 433 - 2241 畑中まで

日 時 9月15日(土)13時~16日(日)12時まで

場 所 山形ビックウイング(山形国際交流プラザ)

山形市平久保100番地(TEL 023-635-3100 FAX 023-635-3030)

参加費 5000円(大会資料集の代金を含みます)

懇親会費 5000円

大会の主な内容:

9月15日(土) (ビックウイング2F大会議室)

13:00 開会実行委員長挨拶基調報告事務局長報告

14:30 講演佐高信さん(評論家)

「情報公開は民主主義の源泉」

15:30 包括外部監査人表彰

15:45 分科会

議会改革 - 政務調査費を含め議会のあり方を考えます

談合 - 次々と明らかになる談合,官製談合について考えます

情報公開 - 情報公開の現状とあるべき姿を考えます

18:00 懇親会(ビックウイング2F交流サロン)

9月16日(日) (ビックウイング2F大会議室)

09:00 分科会報告(前日の分科会の内容を報告)

09:45 各地報告(全国の市民オンブズマン活動の報告)

11:30 決議,大会宣言



南米ブラジル旅日記

2

迫間 脩

サンパウロとマナウス

楽しかったピラニア釣り

今回は、南米ブラジルのサンパウロに到着後、サンパウロで一泊、アマゾン上流の街、マナウスで三泊した間のことについてお伝えします。

トロントからは約10時間30分。長かった空の旅も最終目的地サンパウロ国際空港に、早朝、無事到着。青春の思い出のある地に再び訪れられたことに感極まる。

入国手続きも無事終わりタミナルへ。まずカフェでコトヒ一休憩。その後、中心街にある今夜宿泊予定のバロンルというホテルへと車で向かう。なお、サンパウロでは、日系人エレーナご夫妻に出迎え等現地のお世

しみだという。遠く祖国を離れ、異郷の地で暮らしている者の祖国に対する郷愁の念がひしひしと感じられた。

翌朝、空路でマナウスへサンパウロからマナウスまでは約3時間40分。国土が広大な為、時差が1時間もある。

マナウスは、アマゾンの河口より約1700kmのところの位置し、人口約140万人の都市。そして、世界最大の流域面積を有し「緑の地獄」とさえいわれるジャングルに覆われ、満々と水をたたえて流れる大河、そのアマゾンの真っ只中にある都市がマナウス。陸路はなく「陸の孤島」ともいわれている。マナウスはブラジルにおける日本人移民の主な入植地であったという。今では約40社も日系企業が進出している一大産業都市。また、アマゾン観光の拠点ともいわれている。

まずはホテルを確保し、マナウスでのアマゾン観光について日系の旅行社で相談。単品のツアーも考えたが費用が割高となることから一泊二日のセットツアーに予約。それでも、食事

付、日系人のガイド付で3000USDもした。物価水準から考えると、非常に高く、日本人観光客用の料金であったと思う。

翌朝、小さな船着場から、5〜6人用の小船に乗り一泊日系人の経営するホテルまで向かう。途中でアマゾンの巨大魚ピラルクーの養殖場に立ち寄り、釣を楽しむ。余りの巨大さにびっくり仰天。大きくなると3m体重は200kgにもなるという。

今夜はアマゾンの秘境にあるホテル泊。ホテルの前はアマゾン河。周りはジャングルで全くの一軒宿である。電気は自家発電。携帯電話も不通。お湯は7時から8時までの1時間だけ。宿泊客も、東京からの女子2名と、私達2名の4名のみという状況。今日は赤字とオーナー

はいう。秘境の地であり、日本人観光客もまだまだ少なく経営は厳しいようである。その夜、ワニ観察にアマゾン河の支流へと小船で出発。水路を奥地へと向かう。3時間程で5回、ワニを発見。ガイドさんが素手で捕まえようとすがいずれも

失敗。結局ホテルで飼育している子ワニを抱っこすることに。翌朝、アマゾンの日の出を見、その後、午前、午後の2回、ピラニア釣りを楽しむ。餌は肉の切り身。釣り方は、竿で水面を激しく叩くのだという。また、釣れるポイントには、奥地の水の余り流れていない水草や木のある近くがよいという。これがまた、面白いようにピラニアが釣れ、時間がたつのも忘れて楽しむことができたのである。さらにその後、ジャングルトレッキングをして、一泊二日の楽しいツアーが終了。マナウスの町へ戻りも一泊。翌朝、アマゾン河口の街、ベレンへと出発。

次回はベレンからリオデジヤネイロまでを予定しています。



当面の予定

7月11日 PM 4:00 ~

ニュース発送作業

7月中旬

県政務調査費監査結果がでる予定

7月25日 PM 6:00 ~

第2回全員会議

8月30日 PM 4:00 ~

編集会議

9月15 ~ 16日

全国オンブズマン大会

9月20日 PM 6:00 ~

ニュース発送作業日

9月26日 PM 6:00 ~

第3回全員会議

次回会員会議のご案内

日 時 7月25日(水)午後6時 ~

場 所 和歌山市勤労者総合センター

(和歌山市役所西隣 TEL 073-433-1800)

こぞってご参加下さい